

校友会報 明倫

会員数 7,029 人 (2026.4.1 現在)

発行 〒950-2086
新潟市西区真砂 3-16-10
明倫短期大学校友会
TEL 025-232-6351 (代)
FAX 025-232-6335
URL: <https://alumni.meirin-c.ac.jp/>

—ごあいさつ—



半世紀以上にわたる教育に携わって —「感謝」の一言を・・・—

明倫短期大学名誉教授 江川広子
(歯友歯科高等専修学校 衛 13 回生)
明倫短期大学校友会 常任理事

昭和・平成・令和時代の教育・研究・社会活動を休むことなく、日々楽しく仕事をさせていただき、2026(令和8)年3月特任教授の任期を終了し、4月から非常勤として働くことになりました。3月8日、特別講義で長年携わってきた業務内容等を“未来から過去へ”と題して、講義をさせていただきました。多くの卒業生から聴講していただき、深く感謝申し上げます。特別講義申込みの際に感謝と応援メッセージをいただき、お一人お一人の学生時代のことが、半世紀以上に渡る教育人生の思い出が走馬灯のように駆け巡り、感極まり涙が零れました。

1972(昭和47)年、歯友歯科高等専修学校歯科衛生士科助手として、少人数の教員と共に歯科衛生士教育を担当しながら、附属歯科診療所での臨床と兼務していました。時には昼食時間が15時を過ぎることもありました。学内以外の業務では、個人歯科医院で歯科衛生士不足のため応援依頼を受け、3か月間歯科衛生士業務に就いた経験もあります。また、1984(昭和59)年まで新潟県からの要請で県内の無歯科医地区診療に泊りがけで出向き、歯科診療補助・歯科保健指導等を学生と共に実施し、地域住民の歯科診療ならびに口腔環境の改善に努めました。思い返すと専門学校時代は教育以外の仕事を多く経験させていただき、人間形成に役だったと思います。1997(平成9)年、未来の歯科医療を支え、時代のニーズに対応する優れた資質をもつ人材を育成する高等教育の場として、明倫短期大学が開学しました。スタートと同時に本学の教育に「歯科口腔介護・演習」をカリキュラムに導入し、科学的な手法での歯科口腔介護を実践できる知識と技術を身につけた後に介護保険施設で臨地実習を行ってきています。この教育は全国歯科衛生士養成校に先駆けて実践し、新設の教科に関心が向けられました。この経緯から2001(平成13)年、科学研究費補助金基盤研究に採択され、高齢社会のニーズを見据えた本学教育の先進性と実践力とが、世に示されることとなりました。それに伴い、本科目は歯科衛生士教育には必須と考え、全国の歯科衛生士養成校教員ならびに各県歯科衛生士会を対象に、歯科口腔介護の講義・演習、研修会等を啓発活動として実施いたしました。日本中に歯科口腔介護の“種まき”をし、種が芽を出して花を咲かせ大きな実を付けた大木として明倫短期大学に根付きました。各養成校の先生方から「明倫短期大学＝福祉・介護の先進校＝江川」と、言われるようになりました。29年を経て今では、歯科衛生士業務は歯科予防処置・歯科保健指導・歯科診療補助・歯科介護の四大業務として捉えられるようになりました。現在も歯友会居宅介護支援センターのケアマネージャーを継続して兼務しながら教育に繋げています。

校友の皆様、大学関係者の皆様に支えられて日々楽しく勤められたことに、深く感謝申し上げます。これからも常に感謝の気持ちを忘れずに、気力と体力の続く限り何事にも前向きに取り組んでいきます。今後ともよろしくお願い申し上げます。

2026年3月30日

—事業・会務報告—

役員の変更と今後の会運営について

校友会会員の皆様、ご健勝にてお過ごしのことと思います。日頃は校友会活動にご理解とご協力をいただきまして感謝申し上げます。本年もどうぞよろしくお願いいたします。

さて、昨年の総会にて選出されました本会会長の関根明様より、昨年11月、健康上の理由により会長職を辞任させていただきたいとの申し出がありました。二期目がスタートして半年、約1年半の任期を残しての辞任の申し出でしたので、あまりご負担をおかけしない旨申し上げ、継続していただけるようお願いしましたが本人の意志がかたいため、12月18日の常任理事会において受理することとなりました。

関根様には令和5年4月より、会長としてご就任いただき、いろいろと新しい取り組みにより校友会を牽引していただきましたこと、深く感謝申し上げます。

今後の会運営につきましては、会則第12条1項（副会長は、会長を補佐し、会長に事故あるときは、その職務を代行する。）に基づきまして、副会長が代行させていただくことになりました。会務に支障がないよう努めたいと思いますので、今後もより一層ご協力いただきますようご報告方々お願い申し上げます。

また、次期役員改選に向けて、会長他役員の自薦他薦もお願いしたいと思います。

令和8年2月

明倫短期大学校友会

副会長 本間 和代
平澤 明美
五十嵐雅子
高橋 英子



上堰潟（うわせきがた）公園（新潟市西蒲区）

校友会「ホームカミングデー」講演会



心と身体が元気になる、ごきげんヨガ ～ヨガとラジオと絵本のおはなし～

フリーアナウンサー
講師 水島知子氏

令和7年11月24日(月・休日)に明倫短期大学にて水島氏をお招きして校友会主催の講演会を開催いたしました。校友ならびに地域住民の方69名が出席されました。

水島氏は、千葉県柏市ご出身で、広告代理店に勤務された後アナウンサーを志望し、島暮らしに憧れていたこともあり、佐渡テレビジョンのアナウンサーに応募し、2年間勤務しました。その後、BSN新潟放送でアナウンサーとして勤務され、結婚後はフリーアナウンサーとしてBSNラジオ番組の担当や絵本専門士として、また、市民公開講座講師としてご活躍されています。2008年にヨガと出会い、ヨガインストラクターの資格を取得されました。現在は新潟市内でヨガをご指導されています。



ヨガは、インド発祥で紀元前から存在しているそうです。

これまで私は、ヨガはマット上で呼吸法を用い、ポーズをとるイメージでした。これは、「ヨガ八支則」(心身の調和と精神的成長を促すための8つの実践段階)の一つで、アーサナ(ポーズ)だそうです。自宅で座ってできるヨガもあり、笑いヨガ(ラフターヨガ)を教えていただきました。笑いヨガは、1995年にインドの医師Dr. マダン・カタリア氏とその妻マジュリ・カタリア氏が考案し、世界100ヵ国以上で親しまれているそうです。出席者の皆さんと一緒に呼吸法を用いて肩を回し、ハハハハハ、ヒヒヒヒヒなど声を出しながら作り笑いをして、手や足、表情筋も同時に動かすヨガを体験しました。会場内は笑いでのやかな雰囲気に包まれました。脳は作り笑いと本物の笑いの区別ができないといわれているので、作り笑いでも、免疫力の向上、ストレス解消、血行促進、横隔膜や内臓、脳をしっかり動かす効果があるそうです。

また、「他者とのつながり方の根本原則」の一つであるアンサー(非暴力)とサントーシャ(知足)についても紹介していただきました。他人に対して傷つけることは、結局、自分を傷つけることになる。私たちは自分の花を咲かせるために必要な種は既に持って生まれてきていると教えていただきました。水島氏は、「今の自分に必要なものをみつけて、自分を育てることができれば、他人に優しくなれます。自分を分析して少しずつ行動に変えることが大切です。」と話されました。

私は講演会に出席して、ヨガに対するイメージが変わりました。ヨガは自分を見つめる時間であり、心を癒し、明るく元気にする効果があることを知りました。心も身体もほっこりしたひとときでした。

(校友会副会長 五十嵐雅子記)

令和7年度 明倫短期大学校友会入会式を執り行う

令和8年3月6日(金)、翌日に卒業式を迎える歯科技工士学科第28回生12名、歯科衛生士学科第28回生44名の入会式が明倫短期大学講堂において執り行われました。会長不在ではありましたが、本間・平澤・五十嵐副会長はじめ渡邊・井上・天池・計良の常任理事が出席し、天池常任理事の司会により進行されました。

<挨拶：本間副会長>

卒業生の大半は明倫短期大学が人生で最後の卒業校になるであろうと考えると、今までの小中学校や高校の同窓会とは異なり、資格取得を目指す本学の校友会の存在意義は大きいこととお話しました。卒業後は学科や学年の垣根を超えて絆を深めると共に、在学中に苦楽を共にした同級生との繋がりを大切にして、一人ひとりが各職場で活躍して欲しいとエールを送りました。

社会人となった日々の中で、嬉しいことや辛いことがあった時には孤立することなく、校友の先輩・後輩会員や母校の先生方と繋がって行って欲しいとアドバイスしました。

<校友会組織および目的や活動など：平澤副会長>

校友会会則に従い、本会の会員・役員・支部会などの組織について、また、本会の目的について説明し、理解していただいたうえで、卒業後は校友会活動に積極的に参加していただくようお願いしました。

会員7029名を擁する大所帯の本会の運営は、卒業期に各学科から選出していただいた評議員を以って総会を開催し、事業および予算・決算ほか重要なことを審議し決定して活動していくことと、会員には年2回発行する校友会報「明倫」をホームページに掲載して周知していくことから、是非、見ていただきたいとお願しました。

最後に、28回生の評議員に選出された歯科技工士学科平松大智さん、歯科衛生士学科木村水葵さんが紹介され、入会式を無事終了しました。

新入会員の皆様の社会でのご活躍をお祈りすると共に校友会活動に御理解と御協力をお願いいたします。
(校友会副会長 本間和代記)



本間副会長の挨拶



平澤副会長の校友会概要説明



校友会入会式風景



—会員だより—



厚生労働大臣・日本歯科衛生士会表彰 受賞おめでとうございます

表彰式は2026年2月22日(日)東京国際フォーラムで開催された日本歯科衛生士会創立75周年記念式典において行われました。お二人のご活躍に対する受賞は、校友会としましても大変名誉なことであり、心よりお喜びお祝い申し上げます。

三富純子氏 (歯友会歯科技術専門学校 衛20回生) 日本歯科衛生士会 永年精励賞 受賞

日本歯科衛生士会の正会員として永年、歯科衛生士会を支えた方に贈られる「永年精励賞」を三富純子氏が受賞されました。三富氏は、新潟県歯科衛生士会会長および役員、また日本歯科衛生士会理事・評議員を歴任され、会員の歯科衛生業務の実践力・指導力の向上のため、尽力されました。また、平成23年には日本歯科衛生学会第6回学術大会大会長も務められました。現在は、新潟県歯科衛生士会監事および新潟県歯科衛生士連盟会長としてご活躍されています。

薄波清美氏 (歯友会歯科技術専門学校 衛25回生) 歯科衛生士業務功労者 厚生労働大臣表彰 受賞 日本歯科衛生士会 功労賞 受賞

永年にわたり歯科衛生士の業務を通じて社会に貢献し顕著な功績があった方に贈られる「歯科衛生士業務功労者厚生労働大臣表彰」を薄波清美氏が受賞されました。薄波氏は、介護保険施設に勤務しながら、歯科保健医療分野において指導的役割を果たし、地域歯科保健の発展に貢献されました。また、今回、日本歯科衛生士会功労賞も受賞されました。新潟県歯科衛生士会理事を経て、現在も会長として、会の運営に尽力され、歯科衛生士会の発展に力を注いでいることが認められてのダブル受賞となりました。
(校友会常任理事 渡邊美幸記)



左：三富純子氏 右：薄波清美氏

新潟県中越沖地震から19年間継続した地域高齢者への口腔ケア活動 ～活動実績の学会発表と地域高齢者へのフィードバック～



左：船岡 陽子氏（歯友会歯科技術専門学校 衛27回生）

右：関口恵理子氏（歯友会歯科技術専門学校 衛21回生）

1年前の2025年2月、二人の卒業生から久しぶりに一本の電話が入りました。

2007(H19)年7月16日の新潟県中越沖地震における福祉避難所での活動に端を発した地域高齢者の口腔ケア活動の取組みについて、2025年の日本歯科衛生学会で発表したいとの相談でした。お二人が（一社）新潟県歯科衛生士会柏崎ブロックの地域活動歯科衛生士として、長年活動していることは聞こえていましたが、学会で発表したいと言うその心意気に感動し、締め切りまであまり時間のない中、活動の経緯や積み上げたデータ、行政の協力、多職種連携など研究の背景をもとに、お二人の熱意で膨大なデータを処理・分析して、9月の東京学会でのポスター発表が実現しました。

歯科衛生士が地域住民や行政に対して、一生懸命活動していることをアピールしても、それが実績として、正しく評価されることは難しいのが現実です。日頃の活動から得られる貴重なデータをまとめ、分析・考察して結論を引き出し、外に向かって発信し、第三者から評価されなければ、単なる活動に留まってしまいます。その活動内容を評価する場が学会であり、さらにその発表内容がペーパー（論文）になって学会誌に残ることで、また、次なる研究テーマが見えてきます。

お二人は学会発表で終わりにせず、被験者である地域高齢者に学会で発表した内容について報告会を行ったことは他に例のない取り組みであり、素晴らしいと感動しました。地域高齢者にとっても、日頃、実践している口腔ケアの効果を知ること、さらにモチベーションを高める相乗効果に繋がったことと思います。

保健・医療・福祉・教育の現場で活躍している校友の皆さんが、日頃の活動を是非、発表に繋げていただけたらとの願いを込めて、お二人の取組みを紹介させていただきました。後日、この取組みが、地元の柏崎日報に掲載され市民に紹介されたことを知り、大変嬉しく思った次第です。以下に、柏崎日報様をご提供下さいました記事を紹介させていただきます。

（校友会副会長 本間和代記）



日本歯科衛生学会 東京会場にて
ポスター発表（左：船岡氏 右：関口氏）



柏崎日報 提供

—学園だより—

令和7年度 まさごフェス（明倫祭）を盛大に開催

明倫短期大学では、真砂小学校および真砂小学校区コミュニティ協議会と連携し、地域文化祭『まさごフェス2025』を10月25日（土）に開催しました。今年は新潟市西区委託事業による健口文化啓発のための『地域元気フェスティバル』も併催し、より多くの地域の方々に参加いただけるイベントとなりました。

当日は、午前中に真砂小学校で行われた音楽発表会に明倫生が出演し、歯科クイズや明倫会場の紹介を行うことで、小学生や保護者の皆さんに来場を呼びかけました。また、真砂小学校区コミュニティ協議会による地域巡回タクシーの運行や、2会場を巡るスタンプラリーの実施により、地域全体で楽しめる仕組みが整えられました。その結果、学外からは1,000名を超える来場があり、大変賑やかな一日となりました。

明倫会場（明倫祭）では、歯科技工士・歯科衛生士体験、石こう型取り、ポケット測定、CR体験など、専門性を活かした企画が多数行われ、こどもから大人まで楽しみながら学べる内容となりました。さらに、縁日コーナーや焼きそば・わたあめ・ポップコーンなどの模擬店、明倫カレーの提供、キッチンカーの出店もあり、会場は終始活気にあふれていました。落語家・立川らく萬さんによるステージも好評で、多くの笑いが生まれました。

広報活動としては、近隣の小中学校へのチラシ配布、地域回覧板、店舗掲示、SNSやWEBでの告知を行い、地域の皆さまに広く情報を届けることができました。

学生と地域が一体となり、学びと交流が深まる貴重な機会となった「まさごフェス2025」。今後も地域とともに歩む大学として、より良いイベントづくりを目指していきます。

(学生部長 歯科技工士学科 准教授 植木一範先生寄稿)



明倫祭風景



令和7年度歯科技工士学科研修旅行実施

歯科技工士学科では、学生が現場を見学することから、具体的な就業イメージの獲得と社会的視野を広げることが目的として、今年度は10月2日に那須・日光方面への一泊二日の貸切バスによる研修旅行を実施しました。参加したのは歯科技工士学科1・2年生、生体技工専攻生を含む学生32名と教員4名です。

今回の旅行では、国内有数の大規模歯科技工所である「和田精密歯研 東日本加工センター」と「足利セラミックラボラトリー」を見学しました。最新のCAD/CAM設備や効率的な作業環境、清潔で整った職場の様子に多くの学生が驚き、実際の技工物製作の流れを間近で見ることで、将来の働き方をより具体的にイメージできたという声が多く寄せられました。また、社員の方々との交流を通じて、職場の雰囲気や研修制度について知ることができ、勉強へのモチベーション向上につながったという感想も多く見られました。

観光では那須アウトレットや日光東照宮を訪れ、自然や歴史に触れながらリフレッシュする時間となりました。特に東照宮では、三猿や眠り猫などの有名な彫刻を実際に見られたことに感動したという声が多く、階段の多さに驚きつつも良い運動になったという学生もいました。

アンケートでは「とても楽しかった」「良いリフレッシュになった」という回答が多く、学年を超えた交流が深まったことも今回の大きな成果でした。企業見学と観光を通じて、学びと楽しさの両面を得られる充実した研修旅行となりました。

(歯科技工士学科 准教授 植木一範先生寄稿)



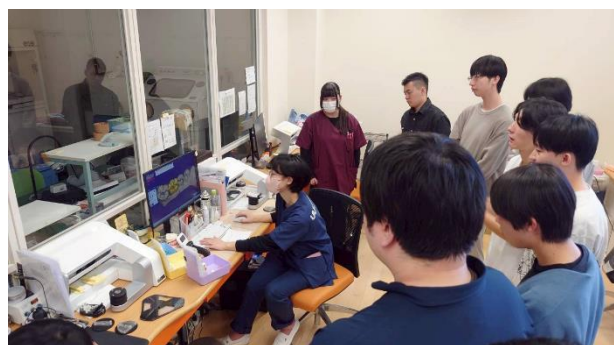
日光東照宮にて



(株)足利セラミックラボラトリー(群馬県太田市)の見学風景



和田精密歯研(株)東日本加工センター(福島県岩瀬郡天栄村)の見学風景



令和7年度新潟県補助事業 「新潟県内歯科技工業を知る見学バスツアー」

明倫短期大学歯科技工士学科では、県内の歯科技工業やものづくりの現場を知ることが目的に、11月12日に見学バスツアーを実施しました。1・2年生あわせて30名が参加し、ワールドラボ（新潟市秋葉区）、諏訪田製作所（三条市）、シンワ歯研（新潟市西区）の3カ所を訪問しました。

最初に訪れたワールドラボでは、普段は見ることのできない技工所内部を見学し、最新設備や作業工程を間近で体感しました。卒業生からの話も聞くことができ、学生からは「働く姿を具体的にイメージできた」「学校で学んだ内容が実際の技工作品につながっていると実感した」という声が寄せられました。

続いて訪れた諏訪田製作所では、本学科の卒業生も働いている精密な爪切りの製造工程を見学しました。職人の集中力や作業環境の整備に感銘を受けた学生が多く、「ものづくりに対する姿勢が印象的だった」「技工士にも通じる考え方を学べた」といった感想が目立ちました。卒業生からの講演もあり、歯科技工士の技術を活かせる道の可能性など知る機会となりました。その後、併設カフェでの休憩も好評で、リフレッシュしながら学びを深める時間となりました。

最後に訪れたシンワ歯研では、実際の歯科技工士から直接アドバイスを受けながら歯型彫刻やワイヤー曲げを体験。「緊張感のある中で作業できて良かった」「就職先を選ぶ視点を教えてもらった」といった声が多く、学生にとって大きな刺激となりました。

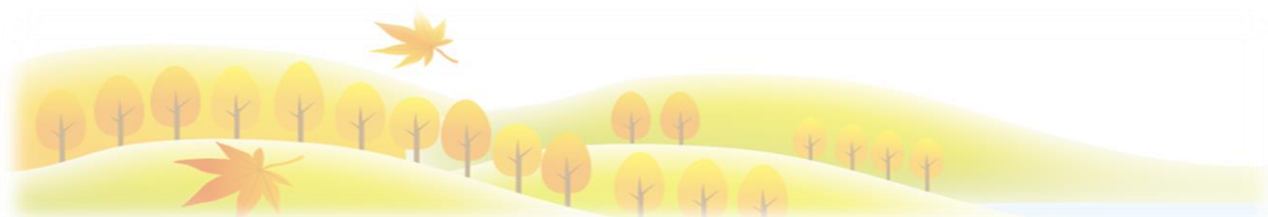
アンケートでは、参加者の約6割が「県内就職への関心が高まった」と回答。見学先企業への就職やインターンシップに興味を持った学生も多く、今回のツアーが将来を考える貴重な機会となったことがうかがえます。

今後も地域企業との連携を深め、学生が実践的に学べる機会を継続して提供していきます

(歯科技工士学科 准教授 植木一範先生寄稿)



新潟県内歯科技工業を知るバスツアー





受賞おめでとうございます

令和7年度は、本学歯科技工士学科の学生が数多くの学外コンテストで優秀な成績を修めた年になりました。既に9月にパシフィコ横浜の日本デンタルショー内で開催された「D-Sports」部門で、生体技工専攻1年生の石川みそらさんが、学生部門で金賞を受賞したことは校友会報(第24-1号)でご報告しました。

その後、日本歯科技工学会第47回学術大会(名古屋市愛知学院大学楠元キャンパス会場)、和田精密歯研が主催する「G-1グランプリ」専攻科部門においても、以下の学生諸君が素晴らしい成績を修めたので各受賞者と受賞内容についてご紹介します。

(以下、歯科技工士学科長 教授 飛田滋先生寄稿)

日本歯科技工学会第47回学術大会学生テクニカルコンテスト金賞 歯科技工士学科2年 佐藤柗太さん

全国には現在歯科技工士養成所が42校(募集停止校含まず)あります。歯科技工に関する国内で最も大きな学会が日本歯科技工学会です。その学術大会が毎年1回開催されるなかで、学生テクニカルコンテストが併催されています。これは歯科技工士の最も基本になる歯の形態の彫刻を競う大会です。毎回、どの歯が課題になるか当日までわかりません。各養成所の精鋭が集い競うものです。今回は32名が参加しました。但し、専攻科生(有資格者)は除外されます。



佐藤柗太さんが受賞した歯型彫刻

左 : (株)ニッシン社長 横江浩司氏

中央 : 佐藤柗太さん

右 : 日本歯科技工学会会長 石川功和氏



日本歯科技工学会第47回学術大会ポスター発表の部 最優秀賞
発表テーマ:「だれもが簡単に行える咀嚼能力検査の試行」
専攻科生体技工専攻2年 金子未奈さん

ポスター発表の部は学会会員の部、学生の部、企業の部の3部門から成り立ちます。新規材料の研究、新しい治療に関わる歯科技工装置の開発、教育手法等々が分野となります。当学会はポスター発表各3部門の1位からさらに1つ最優秀賞を決定します。その最優秀賞に学生部門の金子さんが選ばれました。



左: 金子未奈さん
右: 日本歯科技工学会会長 石川功和氏



日本歯科技工学会会長より表彰

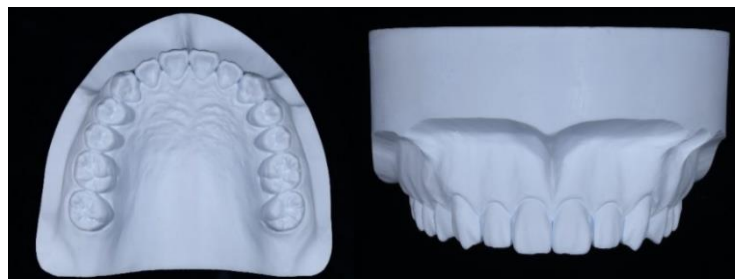
和田精密歯研 G-1 グランプリ専攻生の部 優秀賞
専攻科生体技工専攻1年生 高野徹裕さん

日本最大の歯科技工所である和田精密歯研（大阪本社）が主催する歯型彫刻コンテストで、本学専攻科1年の高野さんが専攻科部門で優秀賞（2位）を受賞しました。

この内容は上顎歯列14本を大きな石こうの塊から彫り上げるという時間と根気と技術力が求められる大会です。



左: 和田精密歯研(株)社長 戸澤康孝氏
右: 高野徹裕さん



高野徹裕さんが受賞した上顎歯列の歯型彫刻

中原八一新潟市長への表敬訪問

以上、単年度内でこれだけの成績を修められたことを受け、令和8年2月2日(月)に宮崎秀夫学長、田村徳幸事務局長、飛田滋齒科技工士学科長、植木一範学生部長と受賞した4名の学生で中原八一新潟市長への表敬訪問が実現しました。伝統ある明倫短期大学が社会から認められる成果を得られたことは、本学学生の励みになるだけでなく、広く社会から認知されることから学生確保に繋がり、本学歯科技工士教育がさらなる高見を目指すエネルギーになるものと感じます。

校友会の皆様には今後も母校へのご支援を何卒宜しくお願いいたします。



左より石川みそらさん・高野徹裕さん・中原八一市長・金子未奈さん・佐藤柗太さん

2025年度 明倫短期大学卒前特別講義が開催されました

日 時：2026年3月5日(木) 10:40~12:10

講師・テーマ：医療・保健・福祉介護教育の人生
～未来から過去へ～

講師：江川広子先生（明倫短期大学名誉教授）

永年にわたり明倫短期大学で教鞭を執られてきた江川広子名誉教授が、教員生活の一区切りを迎えるにあたり、卒業年次の学生を対象とした卒前特別講義を行いました。先生の53年にわたる教員生活の歩みを振り返るとともに、教育・研究への想いや後進へのメッセージをお話いただきました。



江川先生の講義風景



学生さんからの花束贈呈



講義を終えて学生さんと一緒に



新入会員の皆さん 御卒業・受賞おめでとうございます

令和8年3月7日に卒業式および修了式が挙行され、歯科技工士学科、歯科衛生士学科、専攻科の学生諸氏の中から学業成績優秀者が表彰を受けました。校友会会員一同、在学中の皆様の努力に敬意を表し、今後のご活躍とご健勝を祈念いたします。

また、ご卒業・ご修了された皆様におかれましても、明倫短期大学で学んだ知識・技術にさらに研鑽を重ねて健康長寿を支える一員として、社会に貢献していただきたいと思います。

(校友会副会長 五十嵐雅子記)

【歯科技工士学科】

学術賞	佐藤 柊太
技術賞	小形 明日香
特別賞	佐藤 柊太
日本歯科技工士会会長賞	皆川 ちひろ
全国歯科技工士教育協議会会長賞	八木 佑菜
日本歯科技工所協会理事長賞	柄澤 蹴仁
クインテッセンス出版表彰	佐藤 柊太 小形 明日香

【専攻科生体技工専攻】

学術賞	金子 未奈
特別賞	金子 未奈

【歯科衛生士学科】

学術賞	野沢 楓香
技能賞	木村 水葵
日本歯科衛生士会学生部会会長表彰	小林 美稀
クインテッセンス出版表彰	木村 水葵 須藤 美咲
株式会社YDM スケーラー賞	本間 野々香

【専攻科口腔保健衛生学専攻】

学術賞	荒木 佳奈
-----	-------

2025年度卒業式及び専攻科修了式挙行



卒業生・専攻科修了生・教職員 記念写真



歯科技工士学科卒業生



歯科衛生士学科卒業生
(卒業式の前に先生方と一緒に)



2025年度 退寮式

～楽しい思い出がいっぱい～



植木寮長に謝辞を述べる小山ひよさん



歯科技工士学科退寮生と先生方



歯科衛生士学科退寮生と先生方



お世話になった教職員の皆さんと記念写真

—新職員紹介—



明倫短期大学附属歯科診療所
歯科衛生士 板垣 菜花
明倫短期大学 衛27 回生

私は昨年5月より、母校の附属歯科診療所に歯科衛生士として勤務しております。学生時代に学んだ知識や技術を基盤としながら、日々の臨床の中で新たな学びや気づきを得ており、歯科医療に携わる責任と重さとやりがいを実感しております。まだまだ至らない点も多いですが、少しでも成長できるよう一つひとつの経験を大切にして努力を重ねてまいります。どうぞよろしくお願いたします。



明倫短期大学附属歯科診療所
歯科衛生士 新井 仁胡
明倫短期大学 衛27 回生

私は、昨年卒業して、母校の附属歯科診療所に勤務しております。卒業間もない立場として、実習生が抱える不安や緊張する気持ちに寄り添っていきたくと考えています。また、附属歯科診療所では、幅広い年齢層の患者様と接する機会があり、一人ひとりに配慮する丁寧な対応の大切さを改めて感じております。技術面だけでなく医療人としての在り方についても学ばせていただいております。患者様に信頼される歯科衛生士を目指して精進してまいります。

会報「明倫」への物故者名掲載の中止について

令和6年度まで発行の会報に物故会員のお名前を掲載してきましたが、いろいろな観点から再検討し中止することにいたしました。

全国各地の会員に同級生や先輩・後輩のご逝去をお知らせすることも、校友会の役目と受け止め続けてきましたが、会員数の増加に伴い、会報の郵送がホームページ掲載に変更となり、ご遺族様からの情報を得にくくなりました。事務局で把握できる人数も少なく、中止させていただくことになりましたのでご了承ください。

なお、今後は、会員名簿管理の観点から、物故者に関する情報を得られた方は、校友会事務局（各学科の教員）にご一報ください。評議員の皆様にも同期生の情報収集にご協力のほど、重ねてお願い申し上げます。（編集委員）

皆様の氏名・住所等に変更が生じた場合は、事務局へ必ずご連絡ください。

【連絡方法】

1. 電話 025-232-6351
2. FAX 025-232-6335
3. 校友会ホームページ

URL:<https://alumni.meirin-c.ac.jp/>
インフォメーションの「氏名・住所変更」

編集後記

令和7年度第24-1号に引き続き第24-2号を発行いたしました。今回の号では、学生さんや校友会員の皆様のご活躍を数多くご紹介できました。たいへん喜ばしいことです。皆様のご活躍は、本学ならびに本会の今後の励みとなります。ぜひ、ひとりでも多くの会員にご一読して頂きたいと思っております。皆様の活動や趣味、同級会等の情報も掲載したいと思っております。事務局までどうぞご連絡ください。

【編集担当】

五十嵐 雅子
本間 和代
渡邊 美幸